

# 平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

## 1. 学校概要

学校名 聖心女子学院初等科

種 別  保育園・幼稚園  小学校  小中一貫<sup>※注1</sup>  
 中学校  中高一貫<sup>※注2</sup>  高等学校  
 教員養成大学  専修学校、各種学校  
 特別支援学校  
 その他（例 小中高）

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒108-0072

東京都港区白金4-11-1

E-mail : \_\_\_\_\_

Website : <http://www.tky-sacred-heart.ed.jp/syotouka/>

幼児児童生徒数 男子 \_\_\_\_\_ 名 女子 \_\_\_\_\_ 名 合計 \_\_\_\_\_ 名  
幼児・児童・生徒の年齢 \_\_\_\_\_ 歳～ \_\_\_\_\_ 歳

## 2. 報告期間

平成 29 年 4 月～平成 30 年 3 月

## 3. 活動内容

### (1) 活動の概要

当校は、「一人一人がかげがえのない存在であること」を学校理念として、ESDを「世界の一員としての連帯感と使命感をもって」、と捉え、ESDの実践を通して社会に貢献できるための力の育成を目標とした。

具体的には、国際理解、環境、人権を柱に、①ハイチ・デー（募金活動）の活動、②海外の姉妹校との文通の活動、③環境に関わる学習、④特別支援学校との交流、⑤東日本大震災被災地支援の活動、⑥フィリピンの貧困に苦しむ方々への支援活動、⑦能楽教室等を行った。

#### ① ハイチ・デー(募金活動)の活動 [国際理解、平和・人権、環境、気候変動]

昼食のお弁当をおにぎりなど簡素なものとし、おかず分、日頃のおこづかいの節約などで貯めたお金を募金する。1984年、ハイチより来日された日本人シスターより貧困に苦しむハイチの現状を知った児童達により始められた。児童会の活動として、全校参加で行う。

寄付金はハイチやフィリピン他、支援を必要としているアジア、アフリカの地域で働く聖心会シスターのもとに送る。困難な状況をおにぎり弁当を通して共有し、送り先の状況についても学ぶ。

7月3日、12月4日、2月26日に実施。

## ②海外の姉妹校との文通の活動[国際理解]

聖心姉妹校の世界に広がるネットワークを活かして、姉妹校間での継続的な交流活動を行い、世界に向けて視野を広げ、お互いの文化・生活の違いや多様性に気づき、世界の一員として生きる意識を深める。英語科の授業で学んだことをもとに、英文手紙による交流を行い、関係を築くことを楽しむ。

教師の指導のもとに、自己紹介、日本の生活の紹介などの手紙を書く。日本についての理解も深める。また、児童の委員会活動のひとつ、国際委員会でも日本からの発信をする。

### 英語科授業での活動

オーストラリア FCJ College Benalla

アイルランド ダブリン Mount Anville 聖心女子学院 11月

イギリス ロンドン Farnborough Hill 11月

アメリカ サンフランシスコ Sacred Heart School, Atherton CA 6月

### 国際委員会での活動

アイルランド ダブリン Mount Anville 聖心女子学院 11月

イギリス ロンドン Farnborough Hill 11月

アメリカ バンクーバー Clark College 11月

## ③環境に関わる学習[環境・生物多様性]

神奈川県丹沢 山梨県清里高原において宿泊校外学習を行い、周囲の自然環境とそこに生きる生物とその多様性、森林、人間と自然の共生について学ぶ。それぞれ地域の専門家による講習を受け、実地体験をもって学ぶ。特に、清里高原では、現地ネイチャーセンターのレンジャーの指導による環境教育プログラムを行う。2年連続して初夏と秋の異なる季節に実施することで、自然の季節による変化を学ぶ。

### 4年生校外学習 神奈川県足柄上郡松田町 9月13日～15日

松田町教育委員会の協力を得て、周辺の自然、昆虫、小動物、植物などの生物について学ぶ。川の実習も行い、川に住む淡水生物の観察も行う。自然の中での生活体験を通して、自然を味わう感性も育む。

### 5年生校外学習 山梨県北杜市高根町清里 6月6日～9日

レンジャーの指導のもとに森林散策、自然観察を行い、森の自然環境、生物多様性などについて実地に学ぶ、自然教育プログラムを行う。森林から実生の若木を採取し、「ピース オブ フォレスト」として各自持ち帰り、1年後に森に戻すために、1年間自宅で育てる。自然保護、自然との共生の考え方

を学び、各自の活動を通して自然保護に関わる。

地元農家の協力の下に、田植えの作業を行い、秋に稲刈りも実施する。収穫され、精米された米を食することで、農業と自然、人とのかかわり、食とのかかわりについても実地に学ぶ。

#### 6年生校外学習 山梨県北杜市高根町清里 9月5日～8日

レンジャーの指導のもとに、ネイチャーゲームなどの環境教育プログラムを行う。5年時には初夏に訪れた地に、秋に訪れることで季節による自然の変化を学ぶ。

5年時に持ち帰ったピース オブ フォレストを持参し、森の中に植林する。児童の中には1年間育てることができず、枯らしてしまっただけのものもあり、植物の成長の難しさ、自然と人とのかかわりの難しさについても学ぶ。

#### ④特別支援学校との交流、

視覚障害のある児童・生徒との交流を通して、障害のある方々への理解を深め、共に生きる姿勢を育てる。放送委員会は、音声にかかわる活動という観点から、視覚障害のある方々との交流を行っている。

7月22日 久我山青光学園が、障害者と地域の方々との交流を深める目的で行っている夏祭りに参加。模擬店の売り子の手伝いをしながら、同行へ通う子どもたちとの親睦を深めた。

11月 7日 久我山青光学園寄宿舎への訪問交流

視覚に障害があるとは、どのようなことか、障害のある方と共に生きるにはどのようにしたらよいかについて具体的に学んだ。

#### ⑤東日本大震災被災地支援の活動[環境、エネルギー、人権]

2016年12月、岩手県釜石市教育委員会を通じて、釜石市内幼稚園、小学校、中学校にクリスマスカードと図書券のプレゼントを贈った。初等科で約550通集まり、全校では約830通集まった。この活動は、震災の起きた2011年より継続されている。

釜石市には、保護者父親有志が春・秋に継続的にボランティアに行っており、児童・生徒も父親と一緒に参加している。

東日本大震災と東京電力福島第一原子力発電所の事故による放射能汚染の被害を受けた福島県南相馬市立大甕小学校の女子児童との文通交流も初等科生有志によって継続されている。訪問の際に配布された。返信もあり、継続的な交流となってきた。

また、6月に聖心女子大学を会場にして行われる「震災復興チャリティーデー」へ有志参加をしている。

## ⑥フィリピンの貧困に苦しむ方々への支援活動[国際理解]

音楽道具袋、辞書カバー 聖書カバーのフェアトレード品の購入

フィリピンにある聖心会が貧困に苦しむ家庭を対象にして運営している現地の幼稚園の保護者ならびに卒業生の保護者に、児童が使用する音楽道具袋(1年生)、辞書カバー、聖書カバー(5年生)の製作を委託し、フェアトレード品の購入を進めている。保護者会で意図・趣旨を説明し、保護者の理解を得て、購入を通じて経済的な自立支援に協力してもらっている。

上記⑥の活動は上記①のハイチ・デーの活動と同じ地域のものなので、児童は色々な角度から継続的に学ぶことができ、理解を深め、親近感をもってかかわることができている。共生の意識を高める重要な要素となっている。

## ⑦能楽教室 [伝統文化]

日本の伝統文化について理解を深めるために、国語の授業、「伝統芸能」の一環として、能楽師である卒業生を招いて、実際に演じてもらい、鼓、太鼓など楽器の説明を受け、所作の体験もする。

6年生で、3月15日に実施。



① の写真 ハイチ・デー

②海外姉妹校との交流



② の写真 環境に関わる学習(清里) ⑥の写真 辞書カバー(フィリピン)

(2) 活動の詳細

① 活動内容

ア. 活動分野 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input checked="" type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input checked="" type="checkbox"/> 3. 防災	<input checked="" type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input checked="" type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input checked="" type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input checked="" type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input checked="" type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他( )		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入 )	

ウ. 活動時間 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input checked="" type="checkbox"/> 5. その他(委員会活動 校外学習 夏休み)	

エ. 使用した教材 (書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名)

--

② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程 (指導計画) にどのような

に位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。(200～300字程度)

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

☆生活科・総合的な学習の時間において、発達段階に応じて課題を設定して取り組んでいる。

- 1年 身近な自然の一年間の変化
- 2年 国立自然教育園の四季の変化(動植物)
- 3年 海(本年度は深海や深海調査船)
- 4年 宇宙
- 5年 清里での自然観察・各自の個人研究
- 6年 清里での自然観察・各自で卒業研究

☆各教科の指導では、問題解決型の授業を展開する。

- ・各自にじっくりと考えさせる。
- ・お互いの意見を聞き合う時間を確保する。
- ・どのようにして解決することができたかをまとめる。

③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。(200字程度)

※チェック事項 1-4 に対応

児童

- ・児童会が中心になって、募金活動・ボランティア活動を行う。
- ・毎朝のお祈りの時間に、国内や国外の出来事(自然災害や紛争・テロ・事故)などを紹介する。

教職員

- ・全教職員が授業公開をし、お互いに参観し合い授業力の向上を図る。
- ・6年生が行う卒業研究において、全教職員が5名前後の児童を担当して指導・サポートする。

④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価(内部/外部)の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。(200字程度)

※チェック事項 1-5 に対応

☆保護者アンケートや教職員による学校評価(自己)

成果 児童の問題を見いだして解決をする力の向上  
国外にも目を向ける

課題 知識としては理解できているが、実感が伴わない。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

学校内では、成果と課題を把握しているが、外に対しての発信は、ほとんどできていない。  
今後、どのように発信していくかが課題である。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)  
(200字程度) ※チェック事項 2-3 に対応

4年(丹沢)、5・6年(清里)での自然体験のための校外学習では、現地の教育委員会や自然保護団体等から指導員を派遣していただき、学習を進めている。  
2年生は、国立自然教育園において年3回、指導員とともに園の動植物の観察をしている。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度) ※チェック事項 2-4 に対応

本校は、世界に147校の姉妹校があり、交流をする機会がある。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき(特に強調したい)内容(例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化)(200字程度) ※チェック事項 2-5 に対応

☆自然環境の変化や国内外の出来事について関心をもつようになった。(環境・国際理解)  
☆他者を思いやる心  
☆物惜しみしない心

(3) 平成30年度の活動計画(200~400字程度)

☆活動内容に記載した以下のことをさらに発展させていく。

- ① ハイチ・デー(募金活動)の活動
- ② 海外の姉妹校との文通の活動[国際理解]
- ③ 環境に関わる学習[環境・生物多様性]
- ④ 特別支援学校との交流、
- ⑤ 東日本大震災被災地支援の活動[環境、エネルギー、人権]
- ⑥ フィリピンの貧困に苦しむ方々への支援活動[国際理解]
- ⑦ 能楽教室 [伝統文化]

☆「他人、社会、自然環境との関係性を認識し、関わり、つながりを尊重できる個人を育むこと」については、全教育課程を通じて行うことは、勿論ではあるが、本校ならではのキリスト教的な価値観を重視して指導していく。